

## 宮崎陽江 Yoë Miyazaki (ヴァイオリン)

ニューヨーク州イタカ市生まれ、幼少期をパリにて過ごし、3歳よりヴァイオリンを始める。桐朋学園高等学校音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部演奏学科卒業。その間、堀正文、山口裕之、江戸純子各氏に師事。同大学を卒業と同時に全額奨学金を得て米国タンゲルウッド音楽祭(小澤征爾監修)に参加。後、ジュネーヴ高等音楽院に留学、名匠ジャン=ピエール・ヴァレズ氏に師事。在学中、室内楽をガボール・タカーチ、モダン・バロック両楽器をハンス=ハインツ・シュネーベルガー氏の下で学ぶ。1997年、同音楽院をブルミエ・プリ(一等賞)にて卒業。

これまでにスイス、フランス、スペイン、オーストリアなど、ヨーロッパ各地での演奏会、国際音楽祭に多数出演、また、ソリスト・ド・ジュネーヴ、ジュネーヴ室内管弦楽団、ブドヴァイス管弦楽団、などと共演を果たす。

2010年から「Yoë's Project」の活動の一環として、2012年までは師であるジャン=ピエール・ヴァレズらとフランスの優れたピアノ五重奏曲の発掘・録音を行い、また2013年には同氏が音楽監督を務めるバス・ノルマンディー管弦楽団との共演も果たした。2014年にはプラティスラバにてスロヴァキアフィルハーモニー管弦楽団、2015年は北東ドイツにて北東ドイツフィルハーモニック管弦楽団と共演し、2016年11月にはデュッセルドルフ交響楽団とデュッセルドルフでの共演を予定している。

日本では札幌コンサートホールKitara(07年～)、銀座王子ホール(08年)、カザルスホール(09年)、浜離宮朝日ホール(10～12年)でリサイタルを行い、ピアニスト菅野潤氏などと共演。また、2013年は矢崎彦太郎指揮、東京シティ・フィルハーモニック管弦楽団及び札幌交響楽団と共演し、バガニニ「イ・バルビティOp.13」(ヴァイオリン+オーケストラ版)を日本で初演し好評を博す。2014年には、秋山和慶指揮、東京フィルハーモニー交響楽団、及び札幌交響楽団と共演し『メンデルスゾーン』のヴァイオリンコンチェルトを、2015年には東京サントリーホールにてスロヴァキア・フィルハーモニー管弦楽団と再共演、同年、レオシュ・スワロフスキー指揮、札幌交響楽団とも共演し『チャイコフスキー』のヴァイオリンコンチェルトを演奏。

2016年は三大コンチェルトの集大成として『ベートーヴェン』のヴァイオリンコンチェルトを、11月に大友直人指揮、読売日本交響楽団と、12月には大友直人指揮、札幌交響楽団との共演も予定。欧州・日本双方で音楽文化の普及・発展に取り組んでいる。2008年よりオクタヴィア・レコードから5枚のCDをリリース。更にはスイスと日本を拠点としたスタイルを生かし、音楽の源流、作曲家の足跡を求めてヨーロッパ各地取材・撮影したDVDシリーズで、ナヴァラ交響楽団、チェコ・フィルハーモニー管弦楽団と共演するなど、コンサートに留まらず、多方面で活動。2013年には「Yoë's Project」の活動の一環としてフランス作曲家によるピアノ五重奏曲集も発表(欧州限定発売)。2016年秋に、6枚目のCDを発売予定。



## 大友直人 Naoto Otomo (指揮)

現在、群馬交響楽団音楽監督、東京交響楽団名誉客演指揮者、京都市交響楽団桂冠指揮者、琉球交響楽団ミュージックアドバイザー。また、2004年から8年間にわたり、東京文化会館の初代音楽監督を務めた。

国内の演奏会にとどまらず、これまでにコロラド響、インディアナポリス響、ロイヤル・ストックホルム・フィルなどに招かれ、2012年3月にはハワイ交響楽団のオープニングコンサートを指揮、以降定期的に客演し、同年6月にはロレーヌ国立管弦楽団の定期公演に客演、絶賛を博す。2013年にはエネスク国際音楽祭に招かれ「弦楽八重奏Op.7」を演奏。“繰り返し演奏されているが、今回の演奏は最高の演奏”“日本のオーケストラ演奏が西洋音楽への新しい希望を見出した。”と評され、欧米での活躍にも大きな期待が寄せられている。

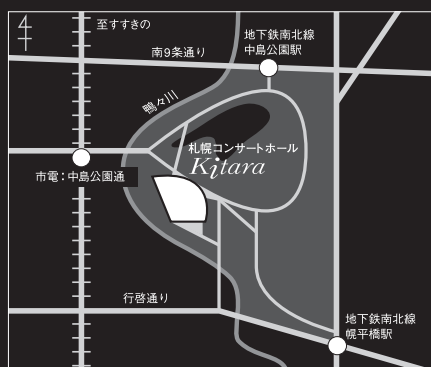
オペラにも力を入れており、1988年日生劇場における《魔弾の射手》でのオペラデビュー以来、オペラの指揮も高く評価されている。特に、2006年8月にブッチーニ音楽祭にて三枝成彰作曲オペラ《Jr.バタフライ》(2014年にも同音楽祭で再演)や、2013年1月には同作曲家のオペラ《KAMIKAZE・神風》の世界初演、そして2014年1月には千住明作曲新作オペラ《滝の白糸》を指揮し、大きな話題となった。近年では教育的活動にも力を注ぎ、国際音楽セミナー「ミュージック・マスターズ・コース・ジャパン」を盟友である指揮者アラン・ギルバートと毎年開催するなど、活発な活動を行っている。2000年第8回渡邊暁雄音楽基金音楽賞、2008年第7回齋藤秀雄メモリアル基金賞を受賞。



## 札幌交響楽団 Sapporo Symphony Orchestra (管弦楽)

首席指揮者：マックス・ボンマー / 名誉音楽監督：尾高忠明 / 名誉指揮者：ラドミル・エリシユカ / 指揮者：佐藤俊太郎、垣内悠希

1961年に創立、名誉創立指揮者は荒谷正雄。「札幌響」の愛称で親しまれ2016年に創立55年を迎える。透明感のあるサウンドとパワフルな表現力は、国内はもとより海外でも評価が高く、2011年のヨーロッパ・ツアー、2015年の台湾公演でも大きな成功を取めた。2015年4月、ドイツの巨匠マックス・ボンマーが首席指揮者に就任。最高の音響を誇る札幌コンサートホールKitaraを会場とする定期演奏会のほか、道内各地や東京での定期公演、青少年向け演奏会、夏の野外ステージなど年間の公演回数は約120回。近年、レコーディングにも積極的に取り組み、毎年CDのリリースを重ねている。



札幌コンサートホール *Kitara*  
〒064-8649 札幌市中央区中島公園1-15  
Tel.011-520-2000

【アクセス】

- 地下鉄南北線「中島公園」駅…徒歩約7分
  - 地下鉄南北線「幌平橋」駅…徒歩約7分
  - 市電「中島公園通」停…徒歩約4分
- ※駐車場はございません。お越しの際は、公共交通機関をご利用ください。